

特定非営利活動法人

埼玉県絶滅危惧植物種調査団ニュース



鳥海山（ニッコウキスゲ群落）

も く じ

APG新分類体系とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 2
活 動 レ ポ ー ト	
総会報告・調査員会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 3
東北の高山植物を訪ねて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 3
第1回観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 5
第2回観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 6
第3回観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 7
あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 8

— A P G新分類体系とは —

矢島 民夫

最近「A P G分類体系」という言葉を見たり聞いたりすることが多くなった。私のように大学を出て40数年も経ち、新しい基準を受け入れる意欲も能力も減少していると、「面倒なことが始まった」の思いが先に湧いてくる。まして、DNAの塩基配列が基準となっているといわれると、「そんな目に見えないもので決められても」の思いがいっそう募ってくる。

そんな最中、国立科学博物館の特別セミナーに「A P G分類って何？」と題するイベント情報が目につき、さして考えもなしに申し込んでしまった。23年6月25日筑波実験植物園で行われたセミナーは植物園関係者以外、私も含めほとんどが年配の人で定員オーバーとなり、講師は熱心な人が多いと感心されていた。やはり、植物に関心のある方々は、新分類に興味があることが分かる。

講演は分類学の歴史から説明があり、リンネの分類体系から現在日本では図鑑や博物館で最も多く用いられている新エングラの分類体系まで、大学の植物分類学を思い起こさせるものであった。1990年代に入りDNAの塩基配列を基準とした系統解析が普遍化され、被子植物の系統分類研究グループ (Angiosperm Phylogeny Group : A P Gと略称される) が活発に活動して、2006年にA P G IIと呼ばれる系統分類体系が公表され、大きな話題となった。ところが2009年10月に、この「A P G II」に最新の研究成果が取り込まれた「A P G III」と呼ばれるものが発表された。これはインターネットを通じて公開されており、検索の仕方が解説されたが、私には利用することは不可能であることが分かった。

「A P G III」では、これまで研究が不十分で系統上の位置が不明であったものの大部分が明らかとなって示されている。また、この分類体系には標本庫などでの資料整理に使用できるように、新しい系統関係に従って標準の番号がつけられている。このため博物館関係者に注目され、国立科学博物館でもこれからの標本整理や植物園の展示にはこの分類体系を用いることになったようである。

詳しくは以下の文献を参考にさせていただくこととして、主な変更を略記してみると被子植物は今まで普通に用いられていた双子葉類 (離弁花と合弁花)、単子葉との分類群が変わり、非単子葉性古草本類 (スイレン目、マツモ目など)、モクレン類複合群 (モクレン目、クスノキ目など)、単子葉類、真性双子葉類 (三溝型花粉被子植物) に分けられている。

科が変更される主な分類群 (属) を見ると、裸子植物ではスギ科の多くがヒノキ科になる。単子葉類ではユリ科がチシマゼキショウ科、ノギラン科、シュロソウ科、シオデ科、ワスレグサ科、ネギ科、キジカクシ科などに細分されている。双子葉・離弁花ではアカザ科の多くがヒユ科に含まれている。ユキノシタ科では主な木本がアジサイ科になっている。双子葉・合弁花ではクマツヅラ科の多くがシソ科に含まれる。ゴマノハグサ科はハエドクソウ科、ハマウツボ科、アゼトウガラシ科、オオバコ科などに細分されている。

引用文献

米倉浩司 2009. 高等植物分類表. 189 p. 北隆館.

大場秀章 2009. 植物分類表. 513 p. アボック社.

大場達之 2010. 千葉県植物誌資料 26. 261-263 p. 千葉県植物誌資料編集同人

活 動 レ ポ ー ト

【総 会】

日 時：平成23年5月29日（日）10:30～12:00

場 所：寄居町中央公民館 研修室

出席者数：会員48名中38名（内書面による出席12名）

当日は、平成22年度事業報告、決算報告、平成23年度事業計画、予算案、役員の報告

運営委員に杉田勝委員を加えることが了承される。

総会終了後、能見三郎委員から武甲山の植物と現状が報告された。

総会に先立ち理事会が開催されました。

日 時：平成23年5月29日（日）10:00～10:30

場 所：寄居町中央公民館 研修室

出席者数：理事11名中10名（内書面による出席1名）

平成21年度事業報告、決算報告、平成22年度事業計画、予算案などが審議されました。

【調査委員会議兼調査員会議】

日 時：平成22年6月13日（日）13:00～15:00

場 所：寄居町中央公民館 研修室

出席者数：会員24名

2012年度に行うべき業務

- 1 再改定「埼玉県レッドデータブック2011植物編」概論等の執筆分担
- 2 維管束植物各論の執筆分担
- 3 希少野生植物種の調査
- 4 環境省レッドデータ調査報告

各項目が挙げられ事務局長からそれぞれの項目の説明がなされました。

東北の高山植物を訪ねて

尾形 一法

昨年7月、矢島民夫氏企画の東北ツアーに参加し、鳥海山、秋田駒ヶ岳、岩木山に登り高山植物を観察したので、その概要を報告します。

1 期 日 平成23年7月15日（金）～7月20日（水）

2 参加者 矢島民夫、木村和喜夫、山下 裕、原 由泰、尾形一法

3 日程・コース

7月15日 上尾——白岡菖蒲 IC——東北道——山形道——
23時半

7月16日 鶴岡 IC——銚立平駐車場・・・・・・鳥海山御室（泊）
5:30 朝食 7:40 着 14:49 着

7月17日 朝食前・・鳥海山山頂・・御室・・・・銚立平駐車場——象潟道の駅
6:30 発 10:42 着 昼食・入浴
——田沢湖——休暇村乳頭温泉郷（泊）
17:00 着

7月18日 乳頭温泉郷——田沢湖高原温泉——（バス）——八合目登山口
7:35 発 7:50 着 8:39 着
・・・・・秋田駒ヶ岳・・・・・八合目登山口——田沢湖高原温泉
10:50 着 12:27 着 昼食
——東北道——弘前 IC——ペンションワンダーランド（泊）
17:09 着

7月19日 ペンション——岩木山八合目駐車場・・・・岩木山・・・・駐車場
8:05 発 8:26 着 10:10 着 11:19 着
——ブナ巨木の森——弘前駅——酸ヶ湯温泉（泊）
11:34 着 16:30 着

7月20日 酸ヶ湯温泉——八甲田山ロープウェイ乗り場——黒石 IC——
9:02 発 9:15 着 9:55
——東北道——国見 SA——白岡菖蒲 IC——上尾
15:10 着 18:23 着 19:00 着

4 観察できた主な植物

<鳥海山>

- ・登山道脇のヨツバシオガマ、ウサギギクが目立ちきれいであった。
- ・雪田周辺のヒナザクラが多数観察された。
- ・羊歯ではオオバショリマ、ミヤマメシダが多く目立った。
- ・尾根筋のニッコウキスゲが満開で尾瀬に劣らぬ見事さであった。
- ・その他 チョウカイアザミ、チョウカIFSマ、ミヤマカラマツ、ミヤマトウキ、ノウゴウイチゴ、キバナノコマノツメ、オオバキスミレ、ベニバナイチゴ、イワウメ、イワブクロ、イワカガミ、ハクサンチドリ など



チョウカイアザミ



ヒナザクラ

<秋田駒ヶ岳>

- ・車道脇にはエゾアジサイが咲いていた。
- ・登山道脇にはエゾツツジが点在し赤紫の花が咲いていた。
- ・外輪山の砂礫地にコマクサが群生していた。
- ・湿地にコモウセンゴケが観察された。
- ・その他 オノエラン、ミヤマダイコンソウ、シロバナトウチソウ、タカネスミレ、オヤマソバ、ミヤマウスユキソウ、オニアザミ など



ミヤマウスユキソウ

<岩木山>

- ・ミチノクコザクラがお目当てで行ったが、ほぼ花期は終わっており、頂上直下の岩場に数株花が残っており、それらをかろうじて観察できた。
- ・ブナ巨木の森の林床には、オオバクロモジ、ユキザサ、エゾユズリハ、ヒメアオキ、タムシバなどが見られた。

<八甲田山>

強風のためロープウェイが動いておらず、時間的余裕もないので登頂は残念ながら諦めた。

【第1回 春の野外観察会】

日 時：平成23年7月5日（火）10:00～15:00

場 所：皆野町 美の山

参加人数：12名（指導者：高橋重男・尾形一法理事）

天 気：晴れ

活動内容：（高橋）

7月5日、午後は所により雨の降る曇りという天気予報であったが、当日になると快晴となり、午後は秩父地方から積乱雲が湧きあがる程であった。

寄居町役場の駐車場に、事務局より矢島さんと尾形さんにも参加して総勢12名が集合、車に分乗して皆野町の東に位置する独立峰の美の山へ向かった。山頂近くの古いこ



いの村、現ヘリテッジホテルで降り、暫らく車道に沿って山頂に向かった。

ホテルの前の広場に出るとリョウブの花が満開で、枝の上いっぱいこぼれる程の白い花を付けている。クマシデの枝からは楕円形をした花穂が垂れ下がっている。

路傍ではナツトウダイが花をつけ、芝の中にブタナの黄色い花がちらほら咲いている。センニンソウやヘクソカズラのつるが崖の上から路まで被いかぶさるように伸び、マルバウツギやニガイチゴに混じってヤマハタザオ、アレチギシギシ、ネジバナ、ウマノミツバなどが見られる。車道のわきには高さ 10m を超えるオニグルミ、ニセアカシヤ、コナラ、エゴノキの林が続いている。道が大きく左にカーブするところにホウチャクソウの大きな群落があり、ノブキやアズマガヤ、ニガクサなども見られた。車道の左側の斜面にはオカトラノオやウバユリも生え、キバナアキギリ、フタリシズカ、イヌショウマも多数認められる。皆さんがクロモジの枝を折って香気を吸い、気分を一新して先に進む。やがて山頂に至る山道にはいると、クロウメモドキやコアジサイ、チゴユリ、フクオウソウ、サジガンクビソウも出てきた。タマアジサイの群落のある湿地を抜けるとハナイカダやムラサキニガナと出会い、ミツバアケビの棚のある東屋で昼食となった。

午後は山頂より展望台まで登り、昔見たタカサゴソウを探したが見つからなかった。帰路は東斜面の 2～3 ha に植えられた、何千本ものアジサイ園の中を下って車道にでた。

【第 2 回 秋の野外観察会】

日時：平成 23 年 10 月 21 日（金）10:00～15:00

場所：寄居町男衾

参加者：23 名（指導者：高橋重男理事）

天気：晴れ

活動内容：（高橋）

10 月 21 日、23 名の参加者を得て今年開園した寄居町男衾の公園コースを散策することとなった。東武東上線に乗り男衾駅で下車すると、駅前の広場に聳える一本のシダレヤナギの大木が眼に入った。早速柳と楊の違いの説明し、北京や北欧で経験した柳絮（リュウジョ）の話しに入った。それは早春のある日、空中いっぱい飛び交う白い真綿のくずのような毛の塊であった。風に吹かれて先が見えないほどで、まるで吹雪のような光景であった。

駅前の道を進んで小さな集落を抜けると、庭の隅に一列に酔芙蓉が何株も植えてある家があった。一昨年奄美大島で見た酔芙蓉は正に酒に酔ったようにピンク一色であった。今日は午前中の早い時間帯なので、多くの花が白色で酔う前の状態である。

30 分程度歩いて自然公園に着いた。ここは江南台地に接する丘陵の端で、周囲に谷津を配した標高 180m くらいの小山である。

入り口に公園の地図があり、植物の名前が付いたいくつかの登山コースがあったが、私達は桜通りを登ることにした。先ずヌルデ、ヤマハギ、タラノキ、クサギ、マルバウツギなどに混じって、ヒヨドリジョウゴ、コセンダングサ、ノアザミ、タケニグサ、オニノゲシなどが眼に付く。急坂を上るにつれ、ジュウニヒトエ、



オトコエシ、コクサギ、チゴユリ、カシワバハグマ、オクモミジハグマなど低山帯の植物も生えている。30分もするとつづら折りの道が終わり、尾根に上がることができた。尾根にはコナラ、エゴノキ、イロハカエデ、ヤマザクラを高木として、オトコヨウゾメ、アオキ、ヒサカキ、シラカシなどが林床を覆っている。

少し下ると展望台に出た。北に向かって開けた景色は荒川の寄居扇状地が一望でき、寄居町の市街地から深谷市の花園地区、川本地区、櫛引地区が見える。その背景に鐘撞堂山、遙か彼方に赤城山や日光白根山、男体山などが見えている。私達はしばしこの素晴らしい景色に見とれていたが、やがて山を下り東の谷津に設けられたトンボ公園で昼食とした。

【第3回 野外観察会】

日時：平成24年2月26日（日）

場所：狭山市・稲荷山公園（午前）、入間市・入間向陽高校 生物室（午後）

参加者：23名（指導者：山下 裕理事）

天気：晴れのち曇

活動内容：ヤドリギと早春の植物の観察。顕微鏡による植物観察。

昨年、好評であった実体顕微鏡を使った実習を含め、午前中は公園内の植物観察。午後は向陽高校生物実験室で実体顕微鏡を使った標本同定を行いました。

9時45分 西武線・稲荷山公園駅に集合。公園内では、ソメイヨシノの冬枝についているヤドリギを観察しました。

市内では、入間川沿いにあるケヤキの枝についているのが目立ちます。半寄生の常緑の低木で、ケヤキ、ブナ、ミズナラ、エノキなどに寄生します。葉はクロロフィルを持ち、冬でも青々としています。緑の少ないこの時期に葉を広げている姿が印象的です。2～3月に花をつけ、球形の淡黄色に熟した粘着物質に包まれた種子を作り、小鳥食べてもらい、その糞にまぎれ、種子が散布されます。そのほかに、ナズナ、オオイヌノフグリ、ブタナ、ウラジロチチコグサなどのロゼットや、すでに花をつけているカントウタンポポやフユノハナワラビなど観察しました。



ヤドリギ



ここではカントウタンポポが比較的多く見られます。

午後は、ここから15分ぐらい歩いて、入間向陽高校の生物室に移動しました。双眼実体顕微鏡を使って、各自用意してきた標本を、顕微鏡下で観察しました。携帯やデジカメで顕微鏡写真を撮っていた参加者もいました。

（文責：山下）

【あ と が き】

今年の編集作業は「埼玉県レッドデータブック2011植物編」の校正作業が終わり、ほっと一息しているところです。ここ3年間は多くの方々の力が改訂作業に費やされたと思われませんが、その成果が本という形で見られることは楽しみであり、やや不安もあります。さらに、この間にも「希少野生動植物の候補種選定調査（植物）」の報告書の作成や環境省のレッドデータ調査報告などの仕事があり、また忙しい1年となりました。

言い訳になりますが、懸案の「さいたま植物通信」はまたも発行することができませんでした。しかし、「植物ハンドブック」の改訂作業は順調に進み、来年度には発行できるまでにこぎ着けています。さらに、念願であった「埼玉県産植物検索表」の編集や「埼玉県植物誌」改訂の仕事が続いています。

こう考えると休んでいる暇が無いようですが、何とか時間を作り調査でなくゆっくりと「植物観察」をしてみたい気がします。

<表紙の写真> 鳥海山愛宕坂付近のニッコウキスゲ（ゼンテイカ）群落

昨年は3月に東日本大震災があり、東北地方に注目が集まることになりました。何かできないかと考えているところに、ボランティア活動も素晴らしいが観光でお金を使ってくれることも大切であるという論調に乗った「東北地方の高山植物を見るツアー」を計画実施することになりました。天候にも恵まれ素晴らしい景色と、貴重な花々を観察することができました。

埼玉県絶滅危惧植物種調査団ニュース

2012年3月31日

編集・発行 NPO法人 埼玉県絶滅危惧植物種調査団

発行責任者 矢島民夫

発行所 〒340-0012 埼玉県草加市神明2-2-48

TEL・FAX 048-924-7288

事務局 〒350-1124 埼玉県川越市新宿町1-3-16

TEL 049-241-5857